

平成30年度 友愛会事業報告

友愛会本部

1. 活動目標

*法令を遵守し、信頼され、透明性のある、適切な法人運営に努める。

*本部機能を充実させ、職員が働きやすい職場づくりを行い、士気の向上に努める。

2. 実施項目

1) 理事会、評議員会、監査

①責任ある事業執行、明確な経営管理

②重要な事業や運営について検討・協議、情報交換

・理事会

第1回 6月4日 平成29年度公益事業第2次補正予算の承認

平成29年度事業報告及び決算監査報告

第2回 8月29日 協議会

飯南病院職員体制について

愛寿園3号棟・ディサービスのボイラー交換工事について

第3回 9月11日 平成30年度福祉事業・公益事業第1次補正予算の承認

第4回 11月5日 平成30年度上半期事業報告及び決算報告

第5回 12月26日 居宅支援事業所愛寿園の休止について

第6回 3月11日 平成31年度事業計画及び予算の承認

・評議員会

第1回 6月18日 平成29年度公益事業第2次補正予算の承認

平成29年度事業報告及び決算監査の承認

第2回 9月20日 平成30年度福祉事業・公益事業第1次補正予算の承認

第3回 11月16日 平成30年度上半期事業報告及び決算報告

第4回 1月17日 居宅支援事業所愛寿園の休止の承認

第5回 3月25日 平成31年度事業計画及び予算の承認

・監査

第1回 5月16・17日 平成29年度事業及び決算監査

第2回 10月26・27日 平成30年度上半期事業及び中間決算監査

・内部監査 6月19日 職員2名にて実施

③役員研修会の開催

12月26日 人権研修会

2) 経営体制の安定化

①稼働率を上げれる事業所は上げ、加算をできるだけ取り友愛会全体として経営の安定に努める

稼働率の低下があり、収入の低下がみられます。それに加え老朽化による修繕費が多額であるため、積立を使用し保有資金の減少もありました。

②友愛会として、合理化、一本化を図る。

合理化・一本化は進みませんでした。

③広報・啓発活動（情報公開・広報誌・各学校訪問等）

「愛寿園だより」を7月・12月の2回発行しました。

インターネット上への情報公開、学校訪問、紹介パンフレット作成配布を行いました。

④地域とのつながりを持てる事業を行う。

愛寿園：施設開放や行事への地域の方の参加の呼びかけを行いました。

3) 人材の育成

①人事交流の実施

調理職員2名・介護職員1名異動実施しました。

②職員研修（各研修会への参加、新人研修の充実、園内研修の実施）

各施設事業報告にて報告

③合同職員会の開催（情報の共有、意識統一）

今年度は単独にて実施しました。

④資格取得の推進

合格者 なし

⑤人材確保（役職員全員で取り組む）

学校訪問（看護大学・短期大学・専門学校・高校）

就職フェア参加（松江・出雲・雲南）

ジョブフェア参加（飯南高校）

ホームページにての求人

地域振興課との情報共有（働きかけ） を行いました。

4) 飯南町福祉協議会の活動への協力

会議、研修会、視察 等の実施、参加協力を行いました。

5) 飯南町包括推進局の活動への協力

視察の受け入れ等行い、研修会・交流会 等の実施、参加協力を行いました。

6) 地域の方を交えた研修会の開催

9月19日 研修会開催

演題「笑の雨が降りますように」

講師 伊藤孝史 氏 参加者 65名

7) 事故、苦情等への迅速適切な対応

各施設事業所より報告

8) 衛生管理の徹底による、各種感染症予防

2月、両施設ともにインフルエンザの感染があり、職員やご利用者様の発症がありましたが、少人数の発症で食い止めることが出来ました。

年間を通じ定期的に研修等行い、知識の習得・意識の向上を図りました。

9) 施設の老朽化による不具合が生じやすいので、利用者様への負担・運営の停滞を招かないよう、施設・機器の管理を行う。

愛寿園：ボイラーの老朽化による故障があり、更新を行いました。寒くなる前に終了することが出来、ご利用者様に不便をかけることなく工事を終了できました。

琴引の里：入浴設備の老朽化による故障があり、更新を行いました。

平成30年度 愛寿園事業報告

1. 運営方針

理念を念頭に置き、「社会人として立派な人材の育成」「利用者、家族様とともに一緒になって歩む」そして「施設だからできないことがないよう」職員一同、力をあわせて、職員も利用者様も居心地のいい施設を作ります。

一人一人の生活の延長上に、施設があるという考えのもと、在宅支援や在宅復帰も視野に入れた、施設運営を行います。

2. 行動目標

*明るい笑顔と、誠実な対応

*少数精鋭を目指す

3. 実施項目

<利用状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	稼働率
施設	57.8	57.5	59.9	59.9	59.8	61.1	60.9	63.6	64.3	63.5	63.1	65.0	61.4	77%
短期	4.2	5.9	5	4.9	5.6	7.9	7.9	8.2	7.2	6.6	5.9	6.3	6.3	70%
通所	14.4	14.1	15.5	15.7	14.4	14.3	14.5	14.3	14.3	14.5	13.8	14.5	14.5	81%
居宅	65	63	67	63	63	62	65	64	60	58	44	24	58.2	

入所 19名

退所 16名（内 看取り6名）

11月より施設の在籍数を67名程度に増やしましたが、入院等もあり、平均利用者数は大きく伸びませんでした。

1) 「望まれる生活」の提供に努める

①多職種協働でご利用者にとっての「質」にこだわった計画・実施・評価を行う
職員個々の資質を上げることが、ケア内容の向上に繋がるので、人材（特に新入職員とその指導者）の育成に取り組み、新入職員はみな資質も高く順調に育っています。また、ケア計画の立案・実施・評価の良い循環を作ることに取り組み、今後その成果が出てくると思います。

②常に業務の見直し改善をはかり、時間と人の無駄使いを省く

企画・運営会議 → 毎月

各部署会議、各委員会会議、各号棟会、リーダー会 → 定例

全体の流れの中での、各職種の仕事内容を考え、常に「改善」を念頭に時間・配置人数等の検討を各部署で行いました。

夜勤体制、看護職員体制の見直しを行いました。

③感染、事故等「予防」に力を入れ、安全な生活を提供する

感染：4月 インフルエンザ発生 感染者7名

2・3月 インフルエンザ発生 感染者2名

事故：

苦情：

④ 頓原サービスの特色を生かした事業に力を入れる

遠足の実施

・キララ多岐 5月

・三瓶 10月

遠出をすることが難しいご利用者様が多い状態の中、工夫を凝らし実施できました。ご利用者様にとっても、自信につながる事業となりました。

2) 職員の資質の向上を図り、「必要とされる人材」づくりを行う

① 県内外の研修会への参加（参加後、研修発表会の開催）

施設外研修 19件（県内）

② 定期的な園内研修会の開催

計画通り行うことが出来ました。

月	日	内容	月	日	内容
5	15	事故防止研修会	8	9	身体拘束廃止研修会
	31	排泄勉強会			
6	5・7	摂食・嚥下勉強会	10	2	褥瘡予防研修会
	13	褥瘡予防研修会		12	防犯研修会
7	12	感染対策研修会	11	29	感染対策研修会
	19	人材育成研修会			

③ 人材育成計画の立案実施

今年度は特に新入職員と指導者を中心に育成計画を立て行ってきました。作業はもちろんですが、「なぜ行うのか」「大事なことは何なのか」そして、「目指しているのはどこなのか」を理解し納得できることに力を入れました。今後も引き続き対象を変えながら行っていきたいと思います。

3) 地域とのつながりを強化し、情報発信に力を入れる

① 総合事業として、緩和された通所を始める

介護予防事業所 にじいろ 利用者数

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
5	5	5	6	7	7	7	8	9	9	9	77	6.4

・毎週1回実施し、包括や公民館職員の方とも協力し事業を行いました。

・体操と買い物は必ず実施し、その他の事業は、参加者の意見を聞きながら計画を作成し実施しました。（1か月の負担金は1,357円）

5月：ボタン園、一福で食事会 6月：栄養指導

7月：ミニ遠足（木次） 8月：マジックショー

9月：リンゴ園、萌美野で食事会 等

- ・参加者も徐々に増え、楽しみながら介護予防と生活支援ができる事業ができました。現在、頓原地域のみで行っていますが、他の地域の依頼もあり、今後の検討課題です。
- ・介護予防の事業を行うことで、少しでも元気に在宅で過ごせる期間が長くなるよう今後も取り組んでいきたいと思えます。

②施設の地域への開放

放課後・夏休み : 小学生4名が利用

敬老会 : アトラクションに地域の方10名来園

③メイン行事として、「夏祭り」の実施 8月4日

地域・ご家族・職員家族 30名

小学校バレークラブ 18名 来園

花火大会とともに、たこ焼き、射的等の模擬店も行い、職員が工夫を凝らし来場者もご利用者様も楽しめる行事となりました。

④小中学校、高校生徒への福祉学習の推進

頓原中学校 ゲストティーチャー 2名参加

飯南高校 総合的な学習 1名参加

⑤地域の美化活動

5月29日 エルシィ前歩道の花壇の清掃実施(国土交通省と共同)

⑥「かぞくのつどい」の実施(利用者ご家族様対象)

7月、10月、3月実施

ご家族様の困りごとを少なくし、リフレッシュできるよう工夫し開催しています。

⑦その他

<実習生の受け入れ>

月	日	内容	人数
4	2/26~20	島根リハビリテーション学院	1名
5	24・25	飯南高校福祉体験学習	5名
	30~6/22	島根リハビリテーション学院	1名
7	2~27	島根リハビリテーション学院	1名
1	22~2/21	出雲医療福祉専門学校	1名

<慰問>

月	日	内容	人数
6	20	老人会友愛訪問	4名
9	18	上町老人会	6名
	27	奥畑老人会	3名
10	17	老人会友愛訪問	4名
11	21	頓原小学校4.5.6年生	10名
2	20	老人会友愛訪問	4名

<視察・見学>

月	日	内 容	人 数
5	26	学生向け企業・業界見学バスツアー	20名
	26	島根県国保地域医療現地研修会	10名
7	5	頓原中学校1年生	15名

4) 職員の講師等派遣

月	内 容	依頼者	人 数
6～11	適正給付に向けた事例検討会助言者	町包括	1名
8	三十歳の成人式（みそじ式）	地域振興課	1名
10	包括推進局介護福祉部会研修会	介護福祉部会	1名
11	ジョブフェア	飯南高校	2名
12	緩和ケア多職種研修会講師	雲南保健所	1名

5) 各種会議の開催（会議内容、組織としての動きの充実をはかる）

①定例会議

- ・運営、企画会議（月1回）
- ・入所検討委員会（月1回）
- ・サービス調整会議（月1回）
- ・通所運営推進会議（年2回）
- ・第三者委員会（年2回）

②その他会議

- ・各部署会議（各部署会、号棟会、リーダー会 等）
- ・各種委員会会議

③家族会 4月15日、11月18日 開催

6) その他

①労働基準監督署来園指導 12月11日

安全衛生委員会の開催、安全衛生規程の整備、出退勤時間の調査、産業医の確認、健康診断の産業医による意見書の確認、休憩時間の取得等についての指導がありました。

②飯南病院調理場について

4月の職員異動時より休職者や退職者があり、平常稼働ができず、職員は休暇が取れない状況がほぼ1年間続き、無理な勤務を強いてきました。これは病院のみならず全ての調理職員に関係し、どこにも負担がかかりました。新たな職員の補充は難しいのですが、それ以外の対策が遅かったことも職員への負担が大きくなる一因でした。迅速な決断・対応ができる理事会の体制が必要です。

③居宅介護事業所休止について

休止の判断や、社会福祉協議会との話し合いなどの時期がやはり大変遅く、携わる者はもちろんですが、社会的にも批判が大きかったと思います。病院調理場と同様に、迅速な決定・対応ができる理事会の体制が必要です。

担当の職員は、引継ぎやご利用者様への説明等誠実に行い、短時間でありながら段取りよく整理することが出来ました。

平成 30 年度事業報告

養護老人ホーム 琴引の里

特定施設入居者生活介護事業所 琴引の里

訪問介護支援事業所 琴引の里

・入所者利用実績について

施設入所 定員 78 名

短期入所 定員 2 名

	年度	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
施設	30	人	76.23	73.45	74.00	74.13	73.19	73.63	72.00	74.17	75.00	76.74	76.00	73.94	74.36
	29	数	74.23	76.35	76.63	77.03	78.00	78.00	77.71	76.60	76.13	76.32	76.79	76.58	76.70
	差														-2.34
短期	30	人	0.00	0.55	1.00	1.00	1.00	1.00	1.13	0.70	1.94	0.77	1.00	1.39	0.96
	29	数	1.00	0.00	0.27	0.00	1.71	1.70	1.00	0.00	1.42	1.68	0.71	0.39	0.82
	差														0.14

- 施設入所者は、年間平均で 74.36 名となっており、14 名の方が入所され、退所については 21 名（死亡退所者 20 名、他施設が 1 名）で、3 月末現在においては、合計 71 名（男性 21 名、女性 50 名）で平均年齢 87.90 才となりました。
- 短期入所者は、定員 2 名のところ年間平均で 0.96 名の利用者となりました。
- 入所者の傾向として、高齢・重度化の入所者が増えており、介護支援の比重が増大している現状や、対応する居室が限られるなどの状況から、重度化対策が急務となっています。

4. 要介護認定者について

年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
31 年 3 月	2	2	4	1	5	7	10	31
30 年 3 月	2	1	3	0	3	12	7	28

5. 平成 30 年度事業活動報告について

別紙 1

6. 平成 30 年度施設内・外研修報告について

別紙 2

7. 平成 30 年度収入は前年度比較で、措置費収入 3,734 千円減、短期入所収入 233 千円増、介護保険収入 11,551 千円減で、措置費・短期入所・介護報酬を合わせた収入では、15,052 千円の減となり、その他の収入減少分 1,691 千円を合わせた 16,743 千円が収入総額で減少となりました。

8. 平成 30 年度支出は前年度比較で、人件費 1,954 千円増、事業費 402 千円減、事務費 3,413 千円減となり、その他の支出減少分 9,988 千円を合わせた 11,849 千円の支出総額の減少となりました。

9. 平成 30 年度修繕工事・環境整備・備品等の購入について
総額 11,469 千円（うち資産計上 9,190 千円）で行いました。
内訳 修繕工事 5,652 千円・環境整備 148 千円・備品等の購入 5,669 千円

10. 年度指導監査及び立入検査について
平成 30 年度はありませんでした。